

かざね しん せん 四万十の風音 森&川だより

「滑床溪谷」山開きに併せてかんたん木工教室を開催

○概要

宇和島市と松野町にまたがる愛媛森林管理署管内滑床山^{なめとこ}国有林の足摺宇和海国立公園「滑床溪谷」で、4月21日、松野町などが主催する山開きの式典があり、両市町の関係者や地元住民ら約70人がゴールデンウィークを前に入山者らの安全と観光振興を、鮮やかな新緑に囲まれた「森の国発祥の碑」前で祈願しました。

また、松野町内2小学校の4年生児童で構成される森の国緑の少年団21名の中から、代表児童がアマゴの稚魚約100匹を四万十川の原流の一つである目黒川に放流しました。

○かんたん木工教室

今年も、滑床ビジターセンター万年荘の屋外テラスに松野町ふるさと創生課が長机や椅子を配置してくださり、国立公園を管轄する環境省土佐清水自然保護官事務所の飯田映美さんと萩野新子さんにも参加していただいて、森の国緑の少年団の児童を対象に「木いホルダー」作りをしました。活動時間が30分と限られていることから、地元の木に親しみ短時間で作製可能となるよう当センター職員が作った木材キットとして、滑床溪谷近くの目黒山国有林などで採取したミズメ、ヒメシャラ、ヤマザクラ、四万十川源流の不入山国有林のクロモジなどの小枝を自然乾燥し、ノコギリで適当な長さに切ったものにニス塗りを施して仕上げ、キーホルダーやストラップの材料として準備しました。

児童達は、この中から好きなキットを選び、動眼^{どうがん}（動く目玉）や木片を付けたり、シールを貼って、ヒモを付けたり思い思いに飾り付けをして完成させていました。

なお、活動の様子は、当日夕方の愛媛県内のローカルニュースで放送されました。

○おわりに

当センターでは、この滑床の自然のすばらしさを、地元の児童に森林環境教育を通じて引き続き伝えていきます。また、利用者には安全で快適に利用してもらえるよう巡視等も続けたいと考えています。



児童代表による玉串奉奠



開放的なテラスは快適♪

シカ防護ネット柵と登山道の点検を実施

当センターの森林体験学習の主要なフィールドは、愛媛県側の登山口から八面山（標高1,165m）及び大久保山（標高1,158m）を経てブナ林へ至る往復約2kmのコースで、道中からは宇和島市街地が一望できるほか、山頂からは遠くは石鎚山や四国カルストなどの山々も望むことができ、気象条件が揃えば九州まで見渡すことができます。

この体験フィールド内の、滑床山国有林2067林班（愛媛森林管理署管内）はブナ、ミズメ、カエデ類からなる約200年の天然生林で、足摺宇和海国立公園（滑床地区）第一種特別地域にも指定され、豊かな自然環境を有し森林環境学習の場としても適していることから、毎年度数件ではありますが学校からの要請を受け児童生徒を八面山や大久保山のブナ林へ案内し、樹木学習や自然観察などの森林体験学習を実施しています。

また、当センターとしてもニホンジカの食害などミヤコザサ等の植生保護のため、三本杭山頂に至る稜線沿いに設置しているシカ防護ネット柵（令和7年度末総延長5,620m）の点検・整備を定期的実施するための主要な歩道があり、さらに、四季を通じて鬼ヶ城山系を中心として滑床溪谷から三本杭へ至るルートなどの登山やトレッキング等で県内外から訪れる方々など、多く入山者が利用する登山道となっていることから、時折出会う登山者との対話を通じて得られる貴重な情報も重要視しつつ、国有林の登山道の管理として、歩行の妨げとなっている倒木等の処理や草刈を年間数回実施しています。

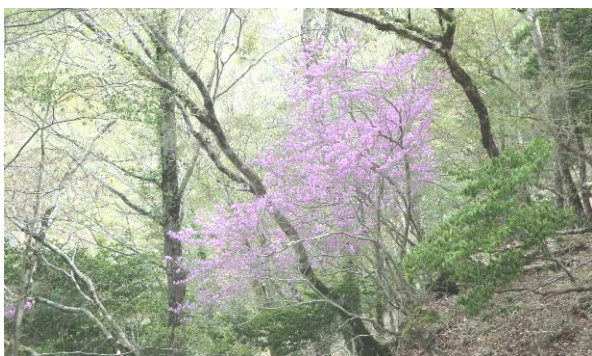
今年もこの夏、草刈等を予定しており、歩行時の転倒や歩道の踏み外しを防ぎ、歩きやすい登山道の維持管理に努めて参ります。



登山者との情報交換



4/27 三本杭山頂の様子



新緑に映えるツツジが美しい



4/27 三本杭北側のシャクナゲは2分咲き

固有種トキワバイカツツジの開花状況調査

トキワバイカツツジは、愛媛県南部にのみ自生する固有種であり、また、5月に開催された「全国植樹祭えひめ 2026」において皇后陛下のお手植えの樹種にも選ばれたツツジ科の常緑低木です。当センターでは、このトキワバイカツツジの開花状況調査を平成29年度から毎年行っており、調査開始時に設定した20本の固定木について、満開日を予測して調査日を設定し、開花数・生長量等を記録しています。

満開日を的確に予測するため、3月下旬から事前調査を毎週実施し、過去3年間の宇和島市の2月以降の積算温度と蕾の大きさや色付き具合の変化などを観察しながら昨年の状況と比較した結果、今年の開花時期は例年より一週間程度早まると判断し、4月24日を満開時の調査日に設定しました。

調査は当センターと、四国森林管理局計画課及び技術普及課との合同により、総勢11名で3班に別れて行いました。

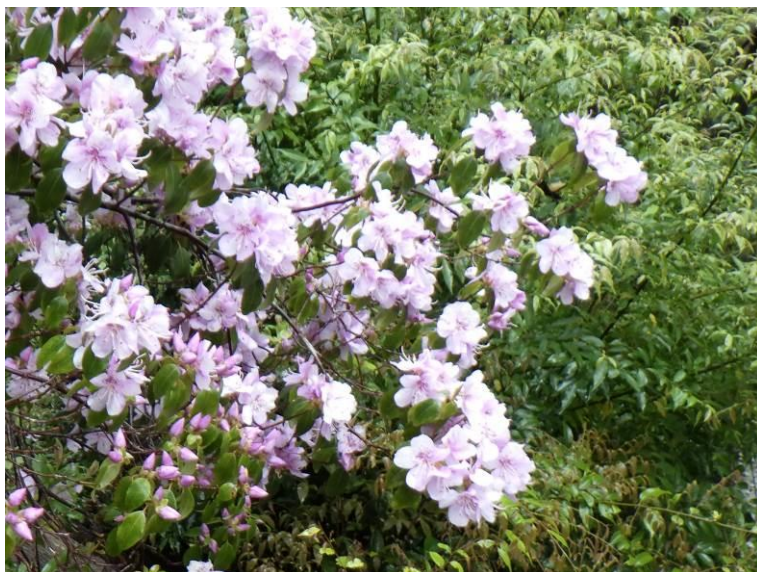
例年通り、満開を迎えた群生箇所では、林道の法面一帯が、淡い紫色やピンク色に染まり、その希少で可憐な存在感を放っており、比較的日当たりの良い箇所ではほぼ満開を迎えていましたが、日当たりの悪い箇所ではまだ緑色の蕾が多数付いた状態だったことから、自生箇所の光環境によって開花状況に大きな違いがあることが確認できました。

また、個体によっては全体の上部にのみ花が付いているものや、一部の枝のみ沢山の花が付くものがありました。さらに、殆どのは花色は薄紅紫色でしたが、ほぼ白色の花が占める珍しい個体もありました。

このように、自生している標高や土壌、斜面の向きといった条件は同じであっても、光環境や個体差によって満開度や花の付き方、花の色に違いがあることが確認できました。

また、この周辺では二ホンジカによる食害が続いており、当センターでは平成24年度からシカ剥皮被害防止ネット（単木保護用ラス巻き）でトキワバイカツツジを単木保護するとともに、定期的な巡視を行い生育状況等に注視しています。

後日調査結果を集計したところ、例年よりやや花（蕾）の数が少ない結果でしたが、今後も、関係者や愛媛森林管理署と連携し、希少種であるトキワバイカツツジの生育環境を維持・保全できるよう、継続的な調査や巡視を実施していきます。



ほぼ満開となったトキワバイカツツジ



固定木の調査中



落ちた花びらも芸術的

南予森林アカデミー研修生、自然再生の取り組みについて学ぶ

○概要

5月25日、南予森林アカデミー研修生を対象に、滑床山自然再生事業の取組についての講習と作業体験研修を実施しました。

この研修は、昨年に引き続き（一社）南予森林管理推進センターから、国有林で取り組んでいる自然再生事業などを題材に現地実習をしたいと依頼があったもので、今年は、研修生6名と同センター職員3名も同行し、当地の現状について理解を深めていただきました。

○はじめに

鹿のコル駐車場において、ふれあい推進センター所長の挨拶の後、配布資料を基に、鬼ヶ城山系の自然環境や植生分布について説明しました。また、三本杭山頂周辺ではシカ食害によりミヤコザサが消滅し、表土の流失から山腹崩壊を招く状況となっていたこと、当時のふれあいセンターが山頂周囲にシカ防護ネット柵を設置したこと、NPO団体やボランティア等の参加協力により移植されたミヤコザサが回復・繁茂し、さらにオンツツジやアセビなどの群落も復活したことを説明しました。

○滑床山国有林での活動紹介

その後、八面山登山口から三本杭へ向けて登山開始し、登山道沿いにある特徴的な樹木について、現地の樹木名板を示しつつ、名前の由来や特性などを詳しく説明しながら山頂を目指しました。

当日は好天に恵まれ絶好の登山日和となり、眼下に広がる造林地や天然林の山々を見下ろすことができ、宇和海の向こうに九州地方の峰々を望みながら歩を進め、滑床山国有林のブナ原生林に到着しました。当地はブナを主体とした広葉樹林分で登山者にも人気ですが、樹木の幹部と根元の樹皮や下層植物がシカ食害を受けて衰退し、林地荒廃に繋がる恐れがある場所です。このため、登山道沿いを主体として、平成18年からシカ防護ネット柵を計17箇所、総延長5,620m設置してきたこと、柵の内側と外側で植物の繁茂状況に違いがみられるなどの効果があることや、一方でブナやカエデ類の高木が枯れて倒れ、シカ防護ネット柵が損壊し、再び食害の影響を受ける恐れがあるため、定期的な点検が重要であることを説明し理解してもらいました。

さらに、ブナ原生林の中を歩くと、オンツツジの満開時期となっていることもあり時折遭遇する登山者と挨拶を交わしながら、ようやく三本杭山頂へ到着しました。鳥形山など四国カルストを遠望できるほどの好条件だったこともあり、初めて訪れたという研修生は360度の大パノラマに感銘している様子でした。



ふれあいセンター所長から植生の説明



三本杭登頂記念写真

○シカ防護ネット柵の点検作業実習

昼食後は登山道（復路）を下りながらシカ防護ネット柵の点検と補修作業の実習に取り組んでもらいました。点検を開始し、登山道から離れ、ネット柵に沿って約 50m 移動した地点で、以前、枯れたブナの枝が落下した際に支柱が折れており、応急処置していた箇所に到着しました。手分けして作業に取り掛かると、堆積した大量の落ち葉や土砂によってネットが埋まっており、掘り出し作業にはやや苦戦しましたが、すぐにコツを掴み、約 20 分で新しい支柱への付け替えを終え、ネット柵の修繕を完了しました。



落ち葉等で埋もれたネットの掘り出し



折れていた支柱の交換作業

なお、その後も、シカ防護ネット柵に引っ掛かった落枝の除去や、控えロープのアンカーの緩みの確認、浮き上がったシャトルアンカーをゴムハンマーで打ち込む補修作業を行いました。また、林内では黒色で視認しづらいネット柵上部（上張りロープ）の状況確認を、離れた場所からでも確認できるようにする試みとして、一部区間に防鳥テープを取り付けました。これらの地道な点検・補修作業が植生の保護につながり、自然環境の維持や国土保全にも寄与する重要な取組であることを理解してもらいました。



防鳥テープを取り付け視認性向上



防護ネット柵にかかっている枝を撤去

○おわりに

当センター所長から、今回の研修生の皆さんに体験していただいた作業についての振り返りが行われるとともに、現地研修の締めとして森林管理推進センター研修教務課長より御礼の挨拶があり、無事終了となりました。

当センターでは、自然再生事業の取組とともに、各小中学校を対象とした森林環境教育や林業関係機関への支援等も引き続き実施してまいります。

かわらっこ村まつり2026に「かんたん木工教室」のブースを出展

○概要

5月24日、四万十市^{たてのかわ}田出川の四万十川沿いにあるオートキャンプ場・カヌー体験施設「かわらっこ」で、地域住民や観光客が交流を深める体験イベント「かわらっこ村まつり」が開催されました。

本イベントは「かわらっこ」が主催し、四万十市が後援しています。当センターにもお声がけをいただき、今回初めて「かんたん木工教室」のブースを出展しました。

○かんたん木工教室

当センターのブース（かわらっこ施設内のホール）では、四万十川源流域の自然木を使った木工体験を行いました。

使用した木材は、黒尊山国有林のミズメ・ヤマザクラ・ヒメシャラ、^{いらす}不入山国有林のクロモジなどで、「自然木を利用した鉛筆作り」と「木いホルダー（通称モックン）」作りを体験していただきました。

まず、来場した親子には森林環境教育教材として、創作紙芝居「もくざいのヒミツ」、「雨水のぼうけん」と、森林の働きや葉っぱを紹介した当センター作製の「オリジナルクリアファイル」を配布し、「ぜひ親子で読んでください」とご案内しました。その後、木工体験の手順と注意事項を説明しました。

自然木の鉛筆作りでは、参加者の希望に沿えるよう3種類のコースを用意しました。

- ①既に鉛筆の芯を入れており、先を鉛筆の形に削って装飾するだけの最短コース
- ②鉛筆の長さに切断済みの材料にドリルでの穴開けと鉛筆の芯を入れる中級コース
- ③採取時の状態（約50cm）から好みの部分を選んで（切断）始めるこだわりコース

なお、今回は小さなお子様連れの参加者が多く、①又は②が特に人気で、自然木は鉛筆削り機では削れない大きさのため、センター職員の指導のもと、親子で協力しながら電動ベルトサンダーを使用して削り、鉛筆の先端のような形に仕上げていました。

また、モックン作りでは、枝や^{どうがん}動眼（動く目玉）を使って表情豊かでユニークな作品づくりが人気で、木片やビーズ、シールなどで思い思いに飾り付けをし、「ここはどうする？」「こうしたらいいかも！」など、親子で相談しながら個性あふれる作品を楽しそうに完成させていました。

○その他イベント

他にも会場のステージエリアでは様々な催しが行われていました。

- 四万十市立中村中学校吹奏楽部によるコンサート
- 間六口さんのバナナのたたき売りショー
- よさこい踊りチーム「^{はなぶしん}幡多舞人」の演舞
- カズダンススクール（黒潮町）のダンス発表．．．など

また、会場前を流れる四万十川では、1チーム6人で巨大なSUPに乗り込み、およそ3キロの川下りで優勝賞金を目指す「メガサップレース」が開催され、参加者たちは息を合わせてパドルを漕ぎ、時にはバランスを崩しながらも、ゴールを目指して熱戦を繰り広げました。

このほか、カヌー体験も行われ、参加者は四万十川の雄大な自然を感じながら、水上アクティビティも満喫していました。

会場には地元グルメの屋台も並び、その賑やかな様子は夕方のローカルニュースでも紹介されました。



○おわりに

参加者からは、次のような声がありました。

保護者「この絵本は知っています。あとで子どもに読み聞かせします。」

子ども「クロモジの香りがよかった。作った木いホルダーをリュックに付けます。ありがとう。」

今回、当センターのブースには 20 組の親子の参加があり、このイベントを通じ「四国森林管理局の役割や事業の PR」、「木材の魅力や森林の大切さの普及」を効果的に伝えることができ、有意義な一日となりました



よさこい踊りチーム「幡多舞人」の演舞



出展ブースの様子①



出展ブースの様子②



ベルトサンダーで削る



オリジナル鉛筆できたよ♪

西土佐中学生に森林環境教育

○概要

四万十市立西土佐中学校では、令和3年度から、四万十市竹屋敷地区と藤の川地区の境界に位置し、四万十川を見守り続ける祈りの森「土佐堂ヶ森（標高857m）」を、「地域の自然や文化、歴史に興味・関心を持つための学習」及び「地域の魅力発見の場」と位置付け、毎年1年生が登山学習を実施しています。登山では、四万十川流域の豊かな天然林や植生の変化、往還道や地藏堂などの歴史・文化に触れながら、郷土の自然や先人が育んできた文化への理解を深めるため、同校からの依頼を受け、四万十森林ふれあい推進センター（以下当センター）が同行し森林環境教育を実施しています。

当初、6月1日に1年生10名の登山を計画していましたが雨天延期となり、予備日の6月8日は台風通過後で不安定な天候だったため、雨天時プログラムとして計画していた当センターのある旧西ヶ方小学校での座学を実施しました。

当日の森林環境教育は、生徒の進行でスタートしました。

西土佐中学校では、生徒の自主性や主体的な課題探究を大切にしており、活動の

進行や運営も生徒自身が担います。一人ひとりが役割を果たしながら学びを深めることも、この森林環境教育の大切な学習の一環となっているとのことです。

最初に、当センターから、森林の持つ働きについてクイズ形式で説明し、生徒が「生き物のすみか、土砂崩れを防ぐ」等と答えてくれました。

次に、「西土佐山と川の物語」と題し、堂ヶ森の由来や、西土佐・藤ノ川に残る森林鉄道の遺構^{いこう}、四万十川中流域に位置する西土佐江川崎周辺で行われていた筏流しなど、林業と川が育んできた歴史にも触れながら、「西土佐地域には古き良き日本の田舎の自然が残されており、清流四万十川をはじめ、由緒ある土佐堂ヶ森、新緑や紅葉が美しい黒尊溪谷など豊かな自然が広がっています。山や川、田畑、そして満天の星空まで、四季折々に異なる表情を見せる景色は、いつまでも見飽きることがありません。自然豊かな西土佐には、訪れる人を魅了するさまざまな魅力があふれています。」と説明しました。また、話の中で、生徒から「野生動物と人との関わりについて」の質問があり、「野生動物と人のすみわけは、人間の生活圏（居住地と農地）と野生動物との生息域を明確に区切り、互いの領域を侵さない環境を作ることですが、昨今、その境界があいまいとなり、連日報道されているクマ出没被害などのように、全国各地で野生動物と人との共生が揺らいでいる現状があり、それらの背景には、地球温暖化や地方の過疎、高齢化や少子化問題、ハンターの減少など様々なことが原因で発生していること」を説明しました。



校舎内多目的ホールでの座学の様子



生徒からの質問タイム

その後、休憩を挟み少しの時間、当センターのある旧西ヶ方小学校内（立派な木造建築校舎）を自由に探索してもらいました。そして、座学後半は木工教室として、当センターに来てもらった記念に、「ハッピー小箱（鉛筆立て）」作りをして木に親しんでももらいました。小箱の組立てや釘打ちの際には、ヒノキの香りや木製品特有の手触りの良さといった感覚に触れてもらいつつ、最初は「トントントン、コンコンコン・・・」という慎重な音だったのが、徐々にコツを掴んできたのか「コンコンコン、カンカンカン・・・」と軽快な音を響かせ、仕上げに自由な発想で色塗りや飾り付けをして作品を完成させました。

最後に学校から、「先日の授業の中で生徒から出た疑問についてセンターのほうから回答をいただけますでしょうか。」との話があり、急遽、何点かの質問が生徒からありましたが、時間の都合で全てに対して答えることができなかったため、後日整理して回答することにしました。

○おわりに

生徒の代表から「森林の大切な働きについてわかりました。山の学習を契機に地

域の魅力発見や様々な学習を通して自己研鑽に努めていきます。本日はありがとうございました。」とお礼の挨拶がありました。

当センターでは、これからも教育関係機関等が行う森林環境教育を積極的に支援して参ります。



ハッピー小箱作りに全神経集中



地域学習と小箱作り楽しかったです

愛媛県松野町の小学校2校で取り組む年間を通した森林環境教育

○概要

当センターでは愛媛県松野町の小学校2校(松野西小学校・松野東小学校)を対象に、年間4～6回程度森林環境教育活動を教科書や学習指導要領に沿って計画的に実施しています。

1学期は、松野西小学校(4年生児童数15名)では、「校庭の樹木学習」(6月9日)、「森林の働きと水はどこから水のゆくえの学習及び校庭樹木に樹木名板や立て札の設置作業」(6月16日)、「木工クラフト学習」(6月30日)を実施しました。また、松野東小学校(3・4年生児童数9名)では、「校庭の樹木学習」(7月7日)を実施しました。

○実施内容

「校庭の樹木学習」は、校内の樹木の名前を覚え親しみを持つとともに、森林や自然環境への興味・関心を育むことを目的としており、樹木を観察しながら、センター職員が名前の由来や特徴、利用方法などを説明しています。松野東小学校では、果肉に石鹼と同じサポニンという界面活性成分が含まれるムクロジの実を拾い、水を入れたペットボトルに果肉を入れて作った溶液を使ったシャボン玉づくりの実験のほか、学校敷地内を散策しながらネイチャーゲーム「葉っぱの窓」(穴のあいた型紙越しに葉脈などを楽しむ)と、フィールドビンゴ「木のカードゲーム」もして、楽しみながら樹木や自然への理解を深めました。

また、松野西小学校の「森林の働きと水はどこから水のゆくえの学習」では、水は人間の生命維持に不可欠であり、あらゆる産業や私たちの生活は水に支えられていること、そして、水は、どこからやってきているかということ、おおもとは森林に降った雨水であり、森林の土壌の中に蓄え、地下水として長い時間をかけて川へ流すことで、急激な水の流出を抑えて洪水を防ぐとともに、河川の水量を安定して保つ働きがあることや、森林の土壌には水をろ過する機能があり、きれいな水を生み出す重要な役割を担っていることも説明しました。さらに河川などの水源から取り入れた水を殺菌・浄化し、安全な

水道水として供給する浄水場と、人間が生活を営むうえで使用した水を再びきれいな状態で自然に戻すための下水処理場の仕組みを説明し、地球上の水は循環しているので無くなることは無いけれど、できるだけ汚さないように利用することの大切さを伝え、あわせて、日本は水資源に恵まれた国と知られ、水道水を安全安心にそのまま飲むことのできる数少ない国の一つであることを説明し、水を育む森林は適切な森林整備が必要であることも説明しました。その後、教室を出て、樹木学習の後に児童達が作製した木製の樹木名板を校庭の樹木に取り付けました。

「木工クラフト学習」では、最初に「木材の特徴」と題して木材の環境材料としての優れた特性について説明し、その後、木工クラフトや木工工作の作り方や注意点を説明しました。お楽しみの木工は児童の希望選択としており、1つは「便利なスマホ台」作り（下絵を描いた背板はスギ、背板を支える三角の角材はヒノキ、スマホをのせる板はキリ、メモ用紙を挟む木製ピンチは既製品で計4つのパーツ）で、児童達は「メッチャ楽しい。」と言いながら、ほのかに香る木の香りや肌触りの良さを感じながら色を塗って仕上げました。もう1つは、釘と金槌を使うやや難度の高い「ハッピーブックスタンド（本立て）」作りで、こちらも組立てる各パーツはセンター職員が板を加工しキットにして準備したものです。

釘打ちの際に、スギやヒノキの香りや木製品特有の手触りの良さといった感覚に触れてもらいつつ、最後に、各自が製作したハッピーブックスタンドに自由な発想で飾り付けをして思い思いの作品を完成させました。

なお、松野西小学校の「木工クラフト学習」と松野東小学校の「校庭の樹木学習」では宇和島ケーブルテレビの取材があり、後日学習の様子が放送されたとのことです。

○おわりに

1学期の活動に対して、松野西小学校からこの学習を通して、児童たち自身が五感で感じたことについて見出しを付けるなど様々な工夫を凝らし、日替わりで発行している学校新聞を頂きました。それには、「学校にはいろんな木がたくさんあるのがわかりました。ケヤキの葉っぱに虫の卵の様（ケヤキハフクロムシの虫こぶ）なものがたくさんついていてびっくりしました。」、「イロハモミジの種がプロペラみたいにくるくる回って飛ぶとわかりました。」、「この松野町は、森に囲まれた自然豊かな地域です。ぼくはこの森を大切にしたいです。」、「樹木に名札を取り付けています。探してみてください。他にも森林の環境を守るためどういったことをしたらいいか学習を通して考えています。」、「本立ては、簡単そうに見えたけど作ってみると難しかったです。でも楽しかった。」など、児童一人ひとりの言葉でまとめられており、学習内容を深く理解し、自らの生活と結び付けて考えている様子がうかがえる内容となっていました。

当センターでは教科書や学習指導要領に沿った森林環境教育を今後も進めていきたいと考えています。



樹木について（松野西小学校）



樹木名板準備完了（松野西小学校）



樹木について（松野東小学校）



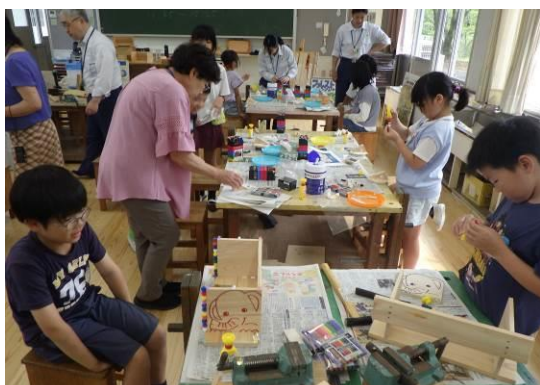
校庭の樹木学習（松野東小学校）



サカキの苗を補植（松野東小学校）



樹木名板設置中（松野西小学校）



木工クラフト学習（松野西小学校）



ブックスタンド完成（松野西小学校）

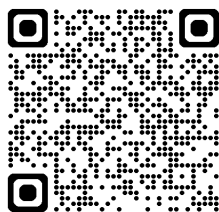


みきちゃん、こみきちゃん、ダークみきちゃんなどのスマホスタンド完成（松野西小学校）

農林水産省 林野庁 水産庁 **MAFF**



目黒山の林道で二ホンジカと遭遇！
「樹木は食べないでね」と言い聞かせました。(^^)



ふれセン、ホームページ

農林水産省 四国森林管理局
四万十川森林ふれあい推進センター
所在地：〒787-1602 高知県四万十市西土佐西ヶ方 586-2
ダイヤルイン：0880-31-6030
メールアドレス：shikoku_fureai@maff.go.jp

